

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 青木 紗恵

## 1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受け、2023年3月6日~16日の11日間、オーストラリア New South Wales 州のキングスクリフにある TAFE（高等職業訓練専門学校）に通い、薬学及び語学研修を行いましたので、その内容についてご報告いたします。

## 2. TAFE について

TAFE では留学生を対象とした様々な専門コース、英語コースを開講しており様々な専門知識やスキルを身に付けることができます。私はそこで主に英語の授業と薬学に関する授業を受けました。

### 2.1 English Class

午前中の約3時間、2クラスに分かれて授業を受けました。

私の受けたクラスではゲーム方式で楽しみながら英語を学びました。例えば、マーブルチョコレートと一部が欠けた英語の質問文の紙がボウルに入っており、取った紙に書かれている英文を自分で補って話し、その質問に英語で答える、そして答えられたらチョコレートを一つ食べるということを行いました。また、2チームに分かれて各チームの代表者が教室の正面に背を向けて座り、他のメンバーは正面に書かれた英単語をその単語自身を使わず英語で説明し、単語が見えていない代表者に伝え、どちらのチームが速く答えられるかを競いました。ゆっくりしては相手チームに負けてしまうので、多少文法がおかしくてもとにかく相手に自分が言いたいことを伝える良い練習になりました。

English Class では基本的に毎日宿題が出て、それはホストファミリーについての質問だったりホストファミリーに直接訊いたり手伝ってもらう必要があるものが多かったので、ホストファミリーと話すきっかけにもなりました。

### 2.2 Pharmacy Class

午後の約3時間、研修生全員で授業を受けました。

この授業ではオーストラリアの薬学について薬学部の先生の話をお聴きし、日本の薬学、医薬品、薬局の在り方について違いを学びました。実際に市販品を用いて服用体験しました。

例えば、Hydralyte というタブレット (Figure 1) を水に溶かしたものを飲みました。これは脱水症状を緩和し、嘔吐、下痢、激しい発汗、激しい運動、二日酔いによって失われた水分と電解質を補充するのに役立つもので、日本でいうスポーツ飲料に近いものを作ることができます。しかし味は日本人には慣れないもので人によっては飲みにくいと感じるようでした。



Figure 1

## その他の学習

前述の English Class や Pharmacy Class の他に Queensland 州の Griffith University と Fingal Head へ行きました。Griffith University ではで実験室 (Figure 2) や模擬薬局 (Figure 3) の見学、Flexi-pak という日本のお薬カレンダーに似たものに、薬の代わりにお菓子を用いてそれを作る体験をしました。(Figure 4,5,6)



Figure 2



Figure 3



Figure 4



Figure 5



Figure 6

Fingal Head ではアボリジニの文化理解のための校外学習をしました。実際にアボリジニの人たちが住んでいた跡地や食べられる実〈Figure 8〉と毒のある植物〈Figure 9〉、アボリジニに伝わる道具や薬になる植物などを教わりました。自分で食べたり道具を作ってみたりすることで異文化を楽しく体験し、記憶に残るものとなりました。



Figure 8



Figure 9

### 3. おわりに

今回のオーストラリア語学留学で、私はリスニング力が足りないことを実感しました。ライティングとスピーキングは、自分の言いたいことを自分の知っている単語や文法を使って伝えることができたと思いますが、リスニングにおいては最初の2,3日はホストファミリーが何を話しているのか全く分からない状態でした。しかし、積極的にコミュニケーションを取ることを意識し続けたり、日常で会話を聞いたりしているうちに少しずつ聞き取れる部分が増えていきました。そして、滞在期間の後半には会話を理解できるようになったのを感じられて嬉しかったです。また、オーストラリアの人たちは町ですれ違っただけの知らない人にも声をかけるので、私も声をかけたり返事をしているうちに英語を話すことへの抵抗感や躊躇いが無くなりました。参加前には、「英語を話す時に文法や語順がおかしかったらどうしよう」、「言いたい言葉の単語がわからず喋れなかったらどうしよう」などの心配があり、自分の英語力が恥ずかしくて積極的に話せませんでした。いざ海外に来てコミュニケーションをとろうとすると、そんなことを一々考えている暇などなくとにかく拙い英語でも話してみることが大切だということを感じました。

これからも英語を学び続け、より多くの人とコミュニケーションを取れるようになりたいと思いました。